

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日

- 教科に関する調査（中学校理科以外）：令和7年4月17日（木）
- 生徒質問調査、中学校理科：令和7年4月14日（月）～17日（木）
- 児童質問調査、後日実施の期間：令和7年4月18日（金）～30日（水）

3 調査対象

- 小学校第6学年（16校）
- 中学校第3学年（7校）

4 調査方法

（1）小学校

- ①教科に関する調査【国語、算数、理科】：冊子を用いた筆記方式
- ②児童質問調査：オンライン方式

（2）中学校

- ①教科に関する調査【国語、数学】：冊子を用いた筆記方式
- ②教科に関する調査【理科】、生徒質問調査：MEXCBTを用いたオンライン方式

5 調査内容

（1）教科に関する調査【国語、算数・数学、理科】

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

（2）質問調査

- ①児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関すること）
- ②学校に対する調査（学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関すること）

6 教科に関する調査の結果

(1) 習志野市・千葉県・全国の平均正答率

小 学 校	国 語	算 数	理 科
習志野市 (%)	70.0	61.0	59.0
千葉県 (公立) (%)	66.0	58.0	57.0
全国 (公立) (%)	66.8	58.0	57.1

中 学 校	国 語	算 数	理 科
習志野市 (%)	58.0	53.0	51.5
千葉県 (公立) (%)	54.0	47.0	49.6
全国 (公立) (%)	54.3	48.3	50.3

※中学校理科のみIRTスコアの平均

※IRT(項目反応理論)とは

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論

- ・ IRTスコア：IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの
- ・ IRTバンド：IRTスコアを1～5の5段階に区切ったもので、3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなる

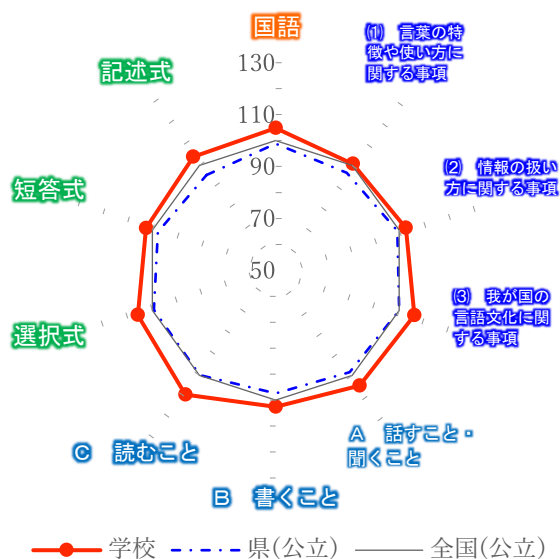
IRTバンド	1	2	3	4	5
IRTスコア	～350	350～450	450～550	550～650	650～

・ IRTバンド集計値【中学校 理科】

	1	2	3	4	5
習志野市	3.5%	24.4%	41.8%	22.4%	7.9%
千葉県 (公立)	4.4%	28.9%	42.3%	19.2%	5.2%
全国 (公立)	4.2%	27.3%	42.0%	20.3%	6.2%

(2) 小学校【国語】

分類		区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
				習志野市	千葉県 (公立)	全国 (公立)
		全体	14	70.0	66.0	66.8
学習指導要領の内容	知識 及び 技能	(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	77.4	74.2	76.9
		(2)情報の扱い方にに関する事	1	64.8	62.6	63.1
		(3)我が国の言語文化に関する事項	1	86.2	81.2	81.2
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	69.6	65.3	66.3
		B 書くこと	3	71.3	67.7	69.5
		C 読むこと	4	62.8	57.4	57.5
	評価の観点	知識・技能	4	76.5	73.1	74.5
		思考・判断・表現	10	67.4	62.9	63.8
問題形式	選択式		9	68.5	64.3	64.7
	短答式		3	80.5	76.7	78.5
	記述式		2	61.2	56.1	58.8



概ね理解しているとみられる内容

- ◇図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること
- ◇時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと
- ◇時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えること
- 文章から内容の大体を捉えたり、図表を用いて書くことの効果を考えたりする
力が身に付いている

課題があるとみられる内容

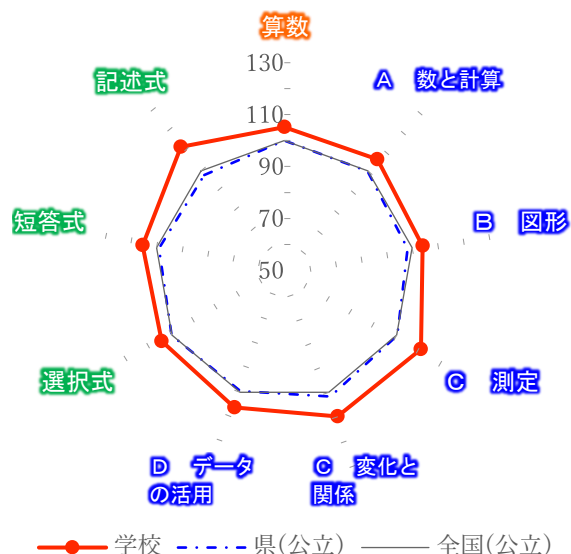
- ◆目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること
- ◆事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること
- ◆目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること
- 資料や文章などを整理したり関係付けたりしながら、必要な情報を捉えること
に課題がある

今後の取り組み

- ①ペアやグループで知っていることや疑問に思うことなどを内容ごとにまとめ、発表させる【伝え合い、振り返り】
- ②文章の各部分だけを取り上げるのではなく、文章全体の構成を正確に捉えて、要旨を把握させる【要旨の把握】
- ③文章や図表など、複数の資料を照らし合わせて、どの情報が対応しているかを確認する【情報の整理】

(3) 小学校【算数】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			習志野市	千葉県 (公立)	全国 (公立)
全体		16	61.0	58.0	58.0
学習指導要領の 領域	A 数と計算	8	65.9	62.2	62.3
	B 図形	4	58.5	55.2	56.2
	C 測定	2	60.7	54.9	54.8
	C 変化と関係	3	63.2	58.5	57.5
	D データの活用	5	66.5	62.3	62.6
評価の観点	知識・技能	9	68.3	64.8	65.5
	思考・判断・表現	7	52.6	48.3	48.3
問題形式	選択式	6	70.3	67.3	67.2
	短答式	6	67.5	63.4	64.0
	記述式	4	39.1	34.2	34.9



概ね理解しているとみられる内容

- ◇棒グラフから、項目間の関係を読み取ること
- ◇異分母の分数の加法の計算をすること
- ◇伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすこと
- 数量の関係を整理して理解する力が身に付いている

課題があるとみられる内容

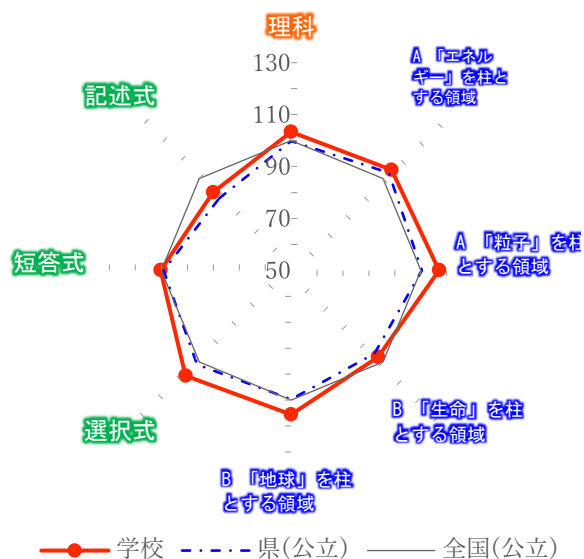
- ◆目的に応じて最適なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること
- ◆分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述すること
- ◆数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えること
- 数量の関係を整理して、数直線上に示したり、言葉や数を用いて分かりやすく説明したりすることに課題がある

今後の取り組み

- ①グラフや数直線、具体物を使って、数量や関係を目に見える形にする
【視覚化・具体化の工夫】
- ②選んだ理由や計算の仕組みなどを、数とあわせて言葉で説明させる
【言語化の練習】

(4) 小学校【理科】

分類		区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
				習志野市	千葉県 (公立)	全国 (公立)
全体			17	59.0	57.0	57.1
学習指 導要領 の区分 ・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	48.9	48.2	46.7
		「粒子」を柱とする領域	6	55.0	51.6	51.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	4	50.6	49.6	52.0
		「地球」を柱とする領域	6	70.4	66.5	66.7
		評価の観点		知識・技能	8	57.2
		思考・判断・表現	9	61.4	57.8	58.7
問題形式		選択式	11	58.8	55.4	54.7
		短答式	4	69.9	69.1	69.7
		記述式	2	41.8	40.3	45.2



概ね理解しているとみられる内容

- ◇赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現すること
- ◇赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現すること
- ◇電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わること
- 観察や実験を通して、条件の制御と結果との関係を整理する力が身に付いている

課題があるとみられる内容

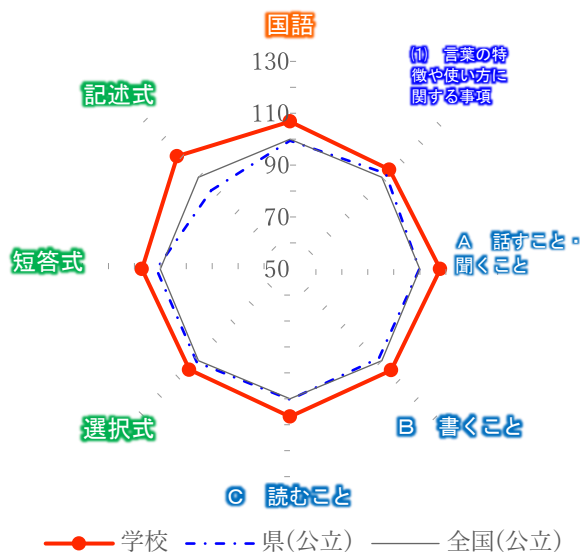
- ◆身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いていること
- ◆電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現すること
- ◆レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現すること
- 学習で身に付けた知識と観察・実験の結果を相互に関連付けて理解したり、新たな問題や実験の方法を発想したりすることに課題がある

今後の取り組み

- ①実験結果や観察記録を表や図などにまとめる
【整理・関連付けの方法の視覚化】
- ②実験結果や知識について、「なぜそうなるのか」などを文章で書かせたり、説明させたりする【言語化の練習、振り返り】

(5) 中学校【国語】

分類		区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
				習志野市	千葉県 (公立)	全国 (公立)
全体			14	58.0	54.0	54.3
学習指導要領の内容	知識 及 び 技 能	(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	50.1	49.1	48.1
		(2)情報の扱い方にに関する事	0			
		(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	57.4	53.1	53.2
		B 書くこと	5	55.5	52.0	52.8
		C 読むこと	3	66.6	62.5	62.3
評価の観点	知識・技能	2	50.1	49.1	48.1	
	思考・判断・表現	12	58.9	55.0	55.3	
問題形式	選択式	8	67.0	64.4	63.9	
	短答式	2	78.8	74.7	73.6	
	記述式	4	28.2	23.5	25.3	



概ね理解しているとみられる内容

- ◇相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること
- ◇表現の効果について、根拠を明確にして考えること
- ◇文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えること
- 文章全体を論理的に捉え、根拠をもとに自分の考えをもつ力が身に付いている

課題があるとみられる内容

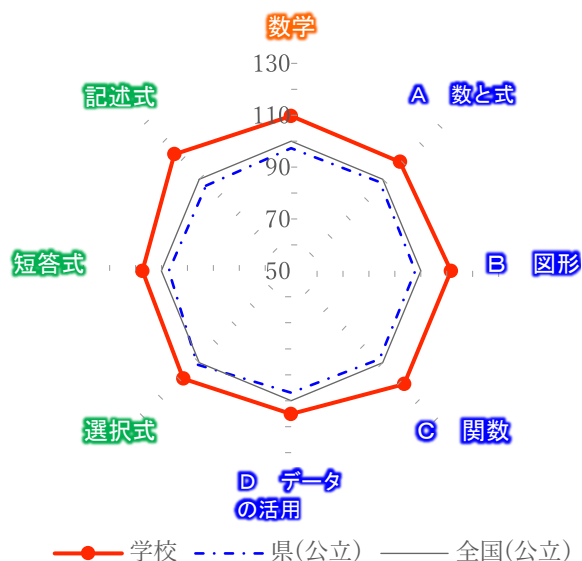
- ◆自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと
- ◆資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること
- ◆文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること
- 根拠を明確にして自分の考えを整理し、分かりやすく伝えることに課題がある

今後の取り組み

- ①課題や問いに対して、意見と根拠をセットで考えさせる
【根拠を明確にする習慣づけ】
- ②書いた文章をペアやグループで読み合うなど、相手に伝わるかどうかを確認させる【相手に伝わる表現の工夫、振り返り】

(6) 中学校【数学】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			習志野市	千葉県 (公立)	全国 (公立)
全体		15	53.0	47.0	48.3
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	47.6	42.8	43.5
	B 図形	4	51.9	45.5	46.5
	C 関数	3	53.8	47.3	48.2
	D データの活用	3	61.6	56.8	58.6
評価の観点	知識・技能	9	58.2	53.5	54.4
	思考・判断・表現	6	44.6	37.8	39.1
問題形式	選択式	3	58.7	54.6	54.0
	短答式	7	55.8	50.5	52.0
	記述式	5	45.0	38.2	39.6



概ね理解しているとみられる内容

- ◇事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげる
こと
- ◇必ず起こる事柄の確率について理解していること
- ◇事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ること
- 数学的な根拠に基づいて事象を理解する力が身に付いている

課題があるとみられる内容

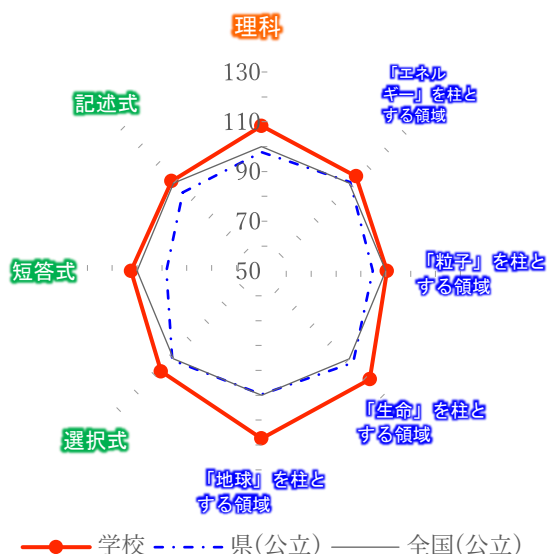
- ◆事象を数や式を用いて考察する場面において、
 - ①事象の特徴を的確に捉えること、②素数の意味を理解していること
- ◆式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて
説明すること
- ◆ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること
- 数学的な意味や構造を根拠にして説明・証明することに課題がある

今後の取り組み

- ①身近で簡単な事象を題材にし、式や図で説明することを繰り返し経験させる
【数学的な構造を根拠に考える習慣づけ】
- ②証明に入る前に「どういう順番で説明するか」を整理させる【構想の可視化】

(7) 中学校【理科】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			習志野市	千葉県 (公立)	全国 (公立)
	全体	—	—	—	—
学習指導要領の 領域	「エネルギー」を柱とする領域	5	58.3	55.9	56.1
	「粒子」を柱とする領域	8	63.1	59.5	61.7
	「生命」を柱とする領域	5	49.2	45.0	44.8
	「地球」を柱とする領域	5	40.7	36.8	37.3
評価の観点	知識・技能	10	69.7	66.6	66.8
	思考・判断・表現	12	41.2	37.3	38.8
問題形式	選択式	15	60.9	57.1	56.9
	短答式	1	46.0	39.6	44.9
	記述式	6	38.6	36.3	39.3



概ね理解しているとみられる内容

- ◇ ストーリーの太さと音の高低に関する情報を収集してまとめを行う学習活動の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いている
- ◇ 火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いている
- ◇ 加熱を伴う実験における実験器具の捜査等に関する技能が身に付いている
- 理科の知識・技能・概念を、事象や生活場面に即して活用する力が身に付いている

課題があるとみられる内容

- ◆ 【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を利用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明すること
- ◆ 大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現すること
- ◆ 気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈すること
- 科学的な知識や技能を基に、探究の過程を整理・分析し、説明することに課題がある

今後の取り組み

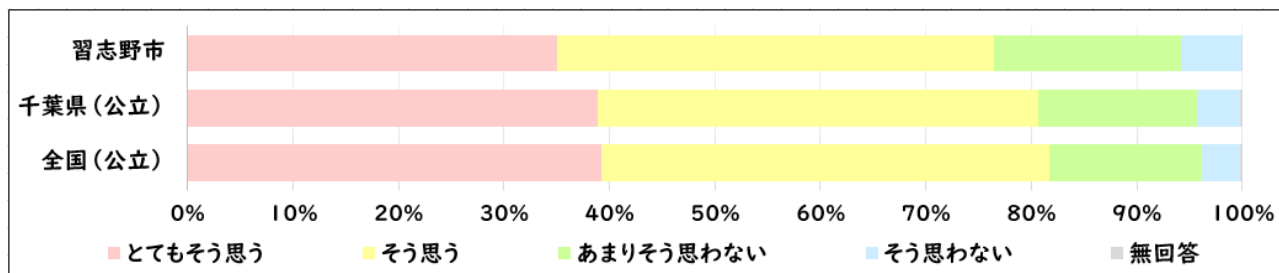
- ① 科学的な知識を根拠にした予想とその理由を共有し、結果と比較させる
【探究の見通しの共有】
- ② 実験や調査結果と予想の違いを整理し、探究の振り返りを構造化させる
【分析・説明の強化】

7 児童生徒質問調査の結果(抜粋)

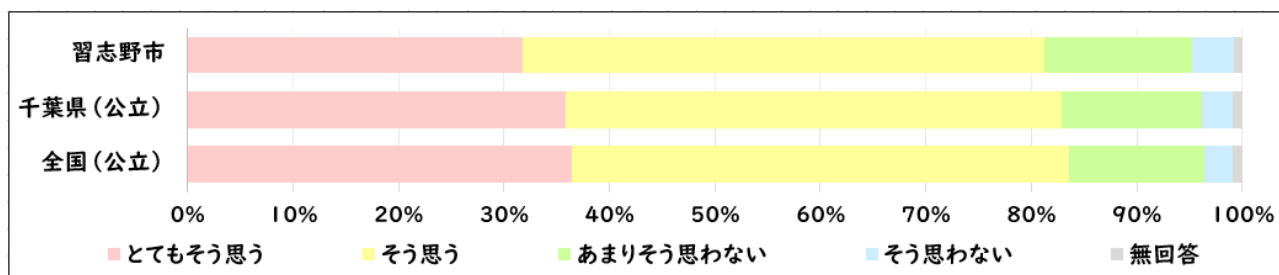
(1) ICT活用

- ①あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができると思いますか。

<小学校>

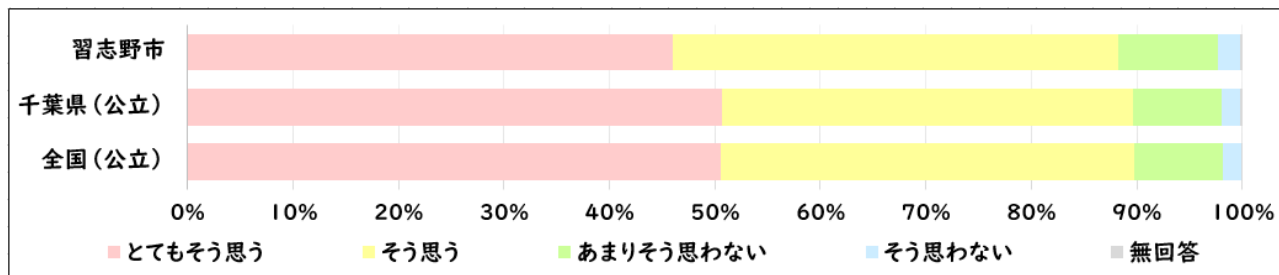


<中学校>

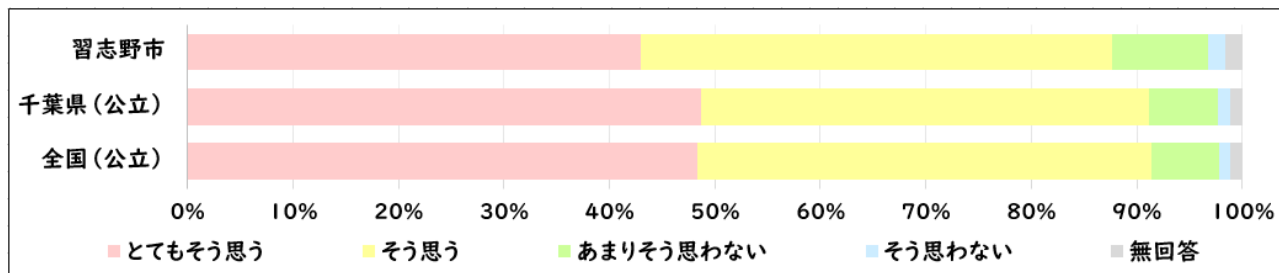


- ②あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができると思いますか。

<小学校>

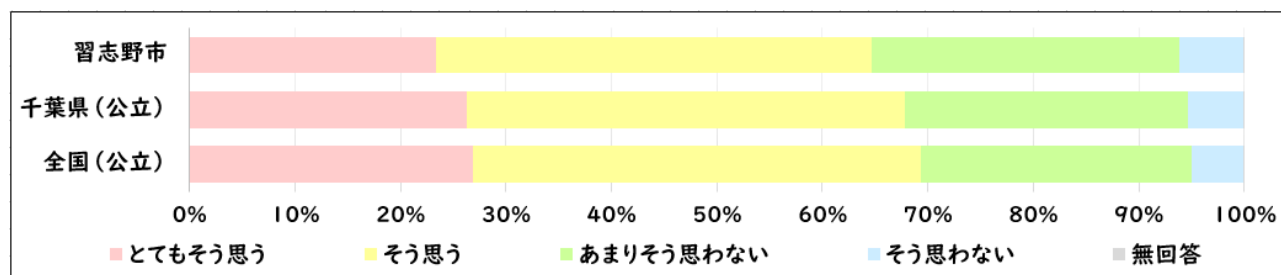


<中学校>

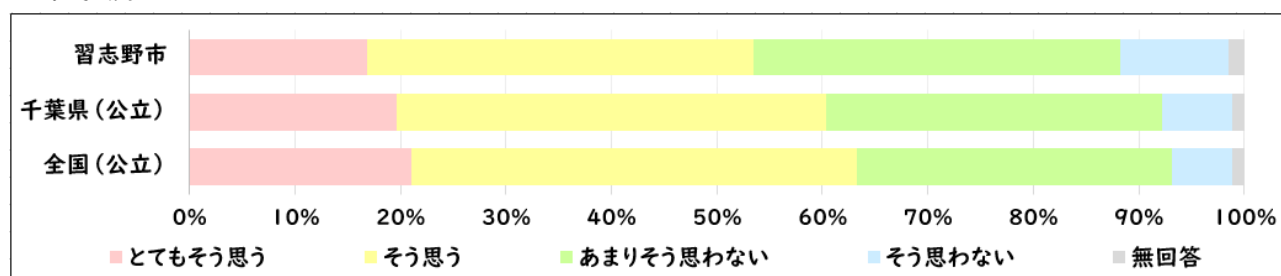


- ③あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができますか。

<小学校>

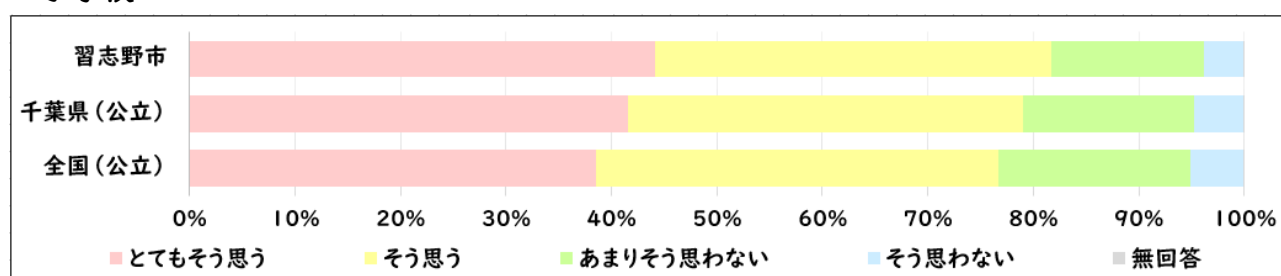


<中学校>

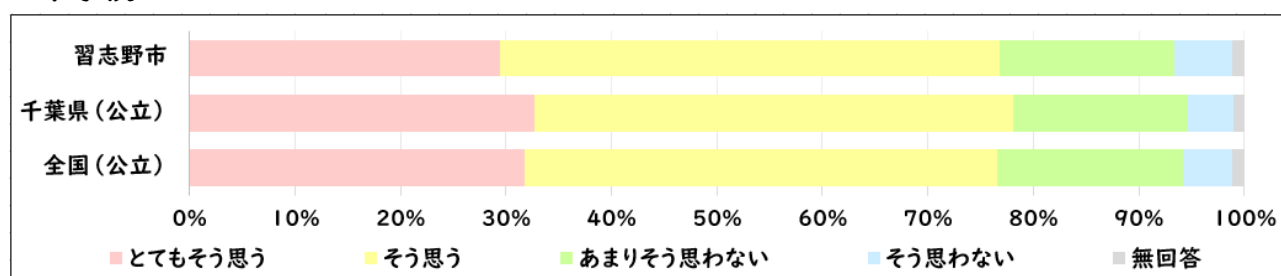


- ④あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか。

<小学校>



<中学校>

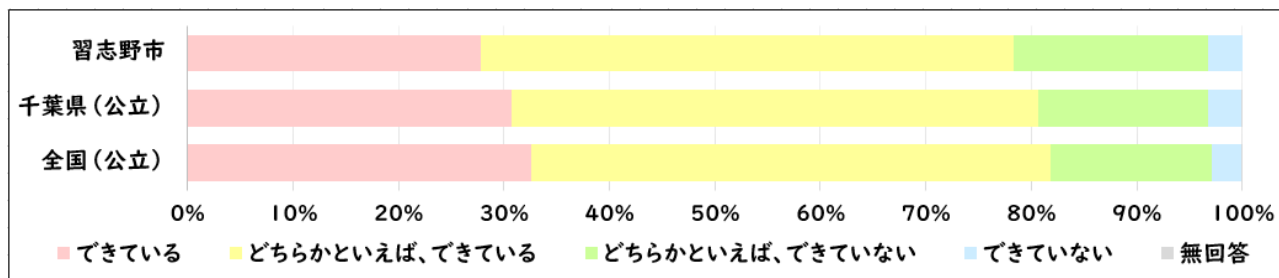


ICT活用に関する質問に対して、「とてもそう思う」と回答している児童生徒が、ほとんど県や国よりも少ない結果となっています。ICTを活用し、主体的・対話的で深い学びに取り組むほど、平均正答率やIRTスコアが高い傾向にあると分析されていることから、児童生徒一人一人のペースやレベルに合った学習を行う「個別最適な学び」、他者と協力しながら課題の解決や新たな考えを創出する「協働的な学び」の、より一層の充実を図るために、ICTの利活用に向けた授業改善の必要があると考えられます。

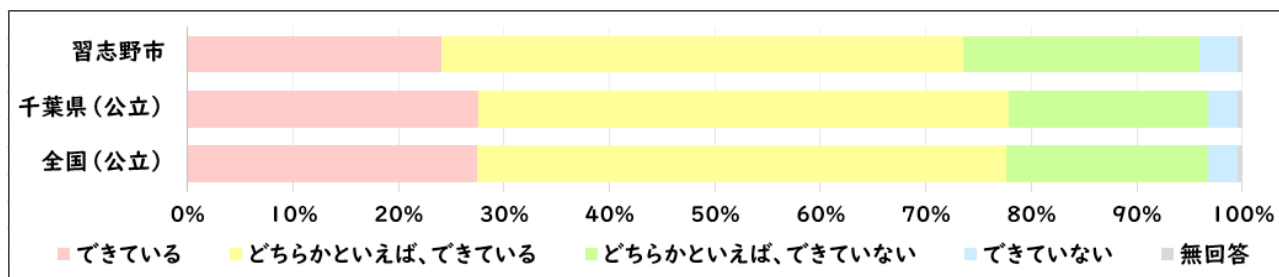
(2) 主体的・対話的で深い学び

①分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

<小学校>

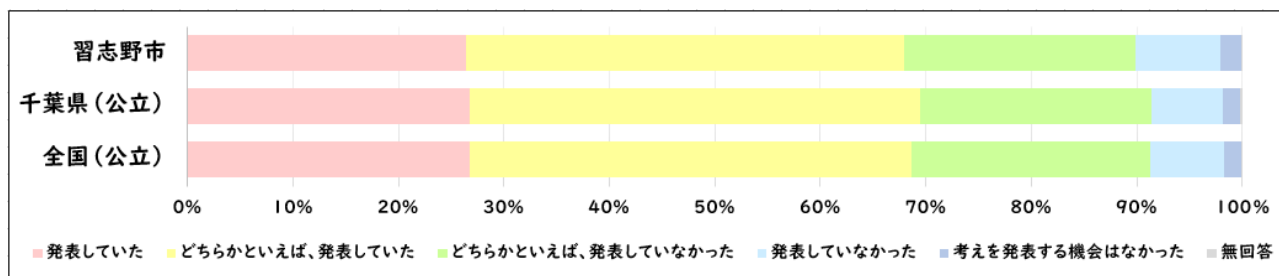


<中学校>

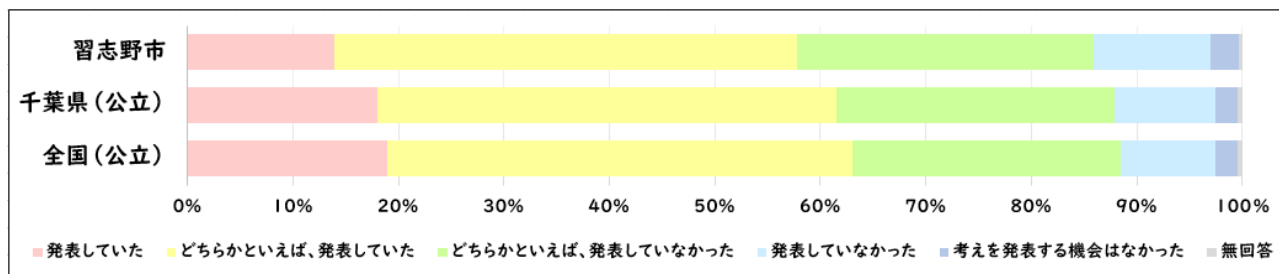


②小学5年生まで[中学1・2年生のとき]に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

<小学校>

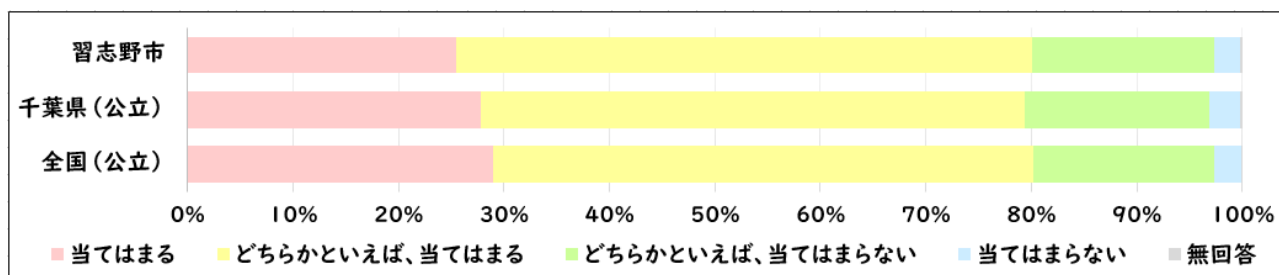


<中学校>

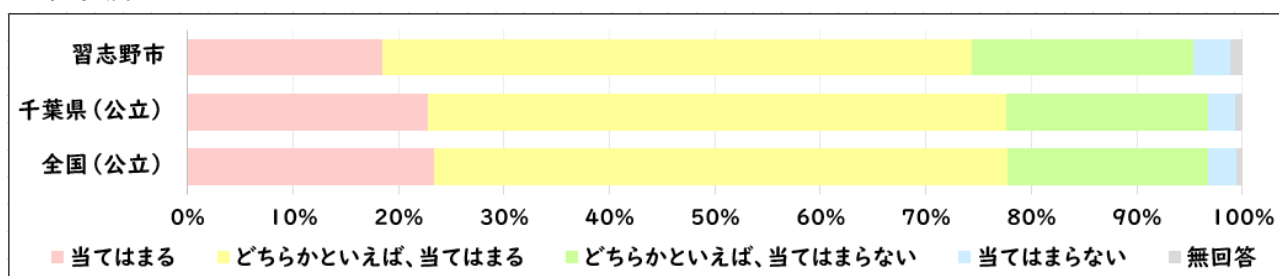


③小学5年生まで[中学1・2年生のとき]に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

<小学校>

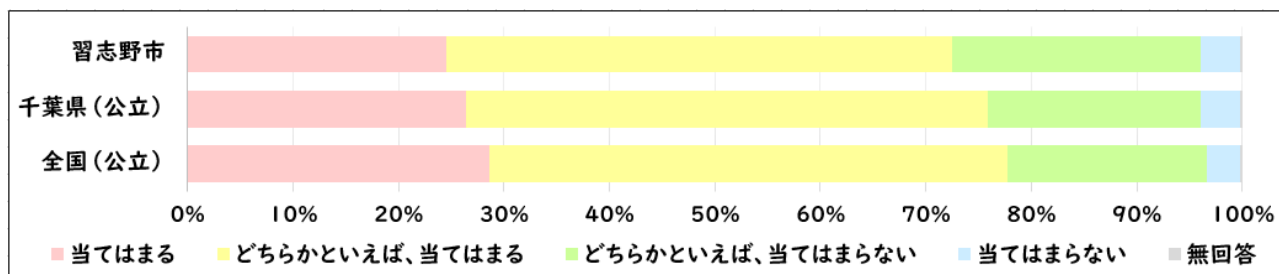


<中学校>

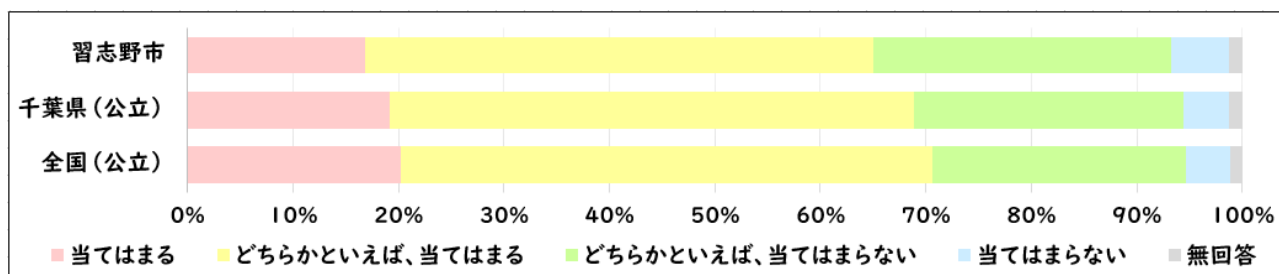


④小学5年生まで[中学1・2年生のとき]に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

<小学校>

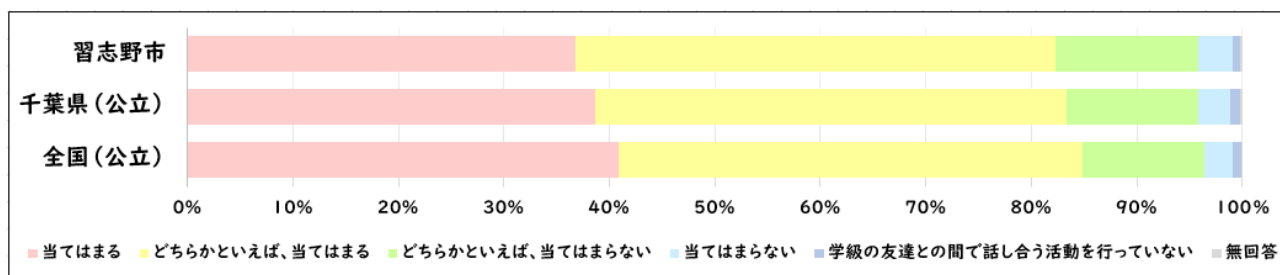


<中学校>

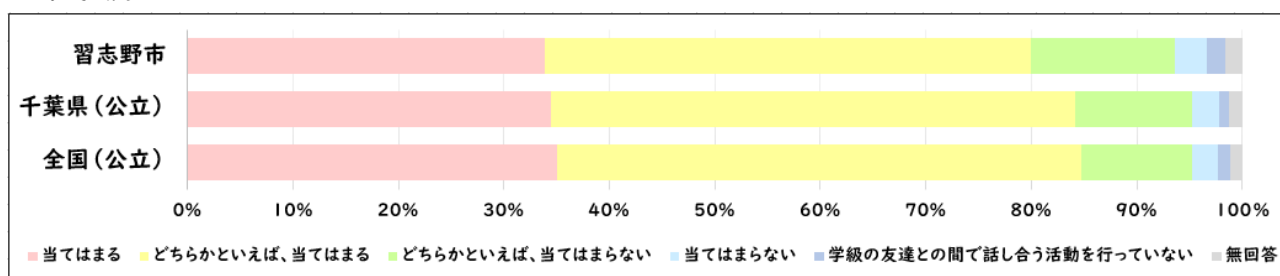


⑤学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたり
 することができていますか。

<小学校>

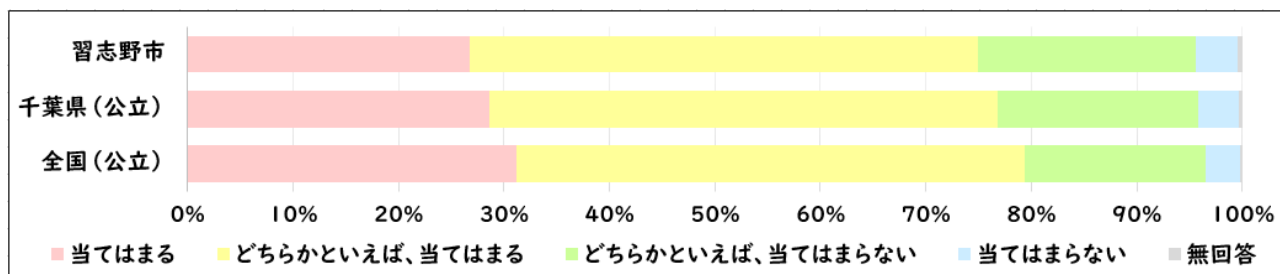


<中学校>

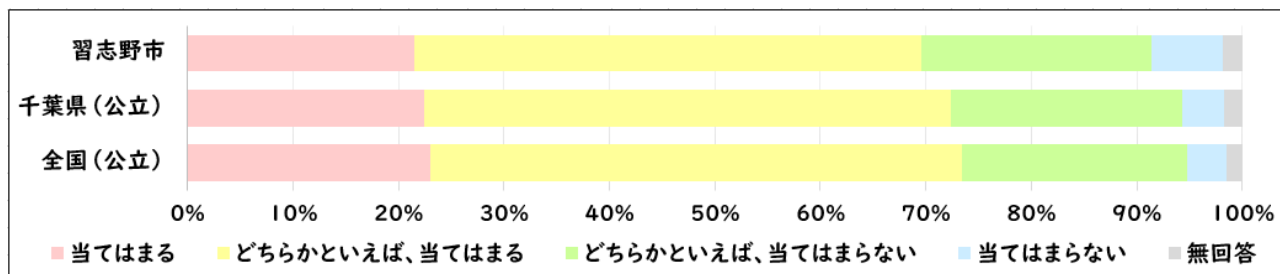


⑥学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

<小学校>

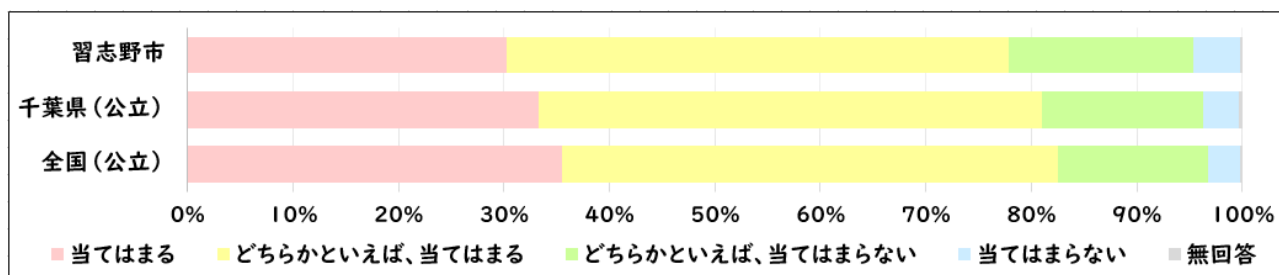


<中学校>

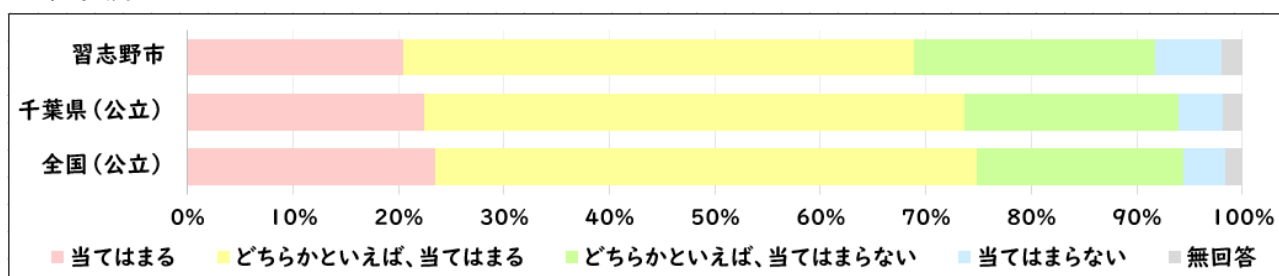


⑦授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると
 思いますか。

<小学校>

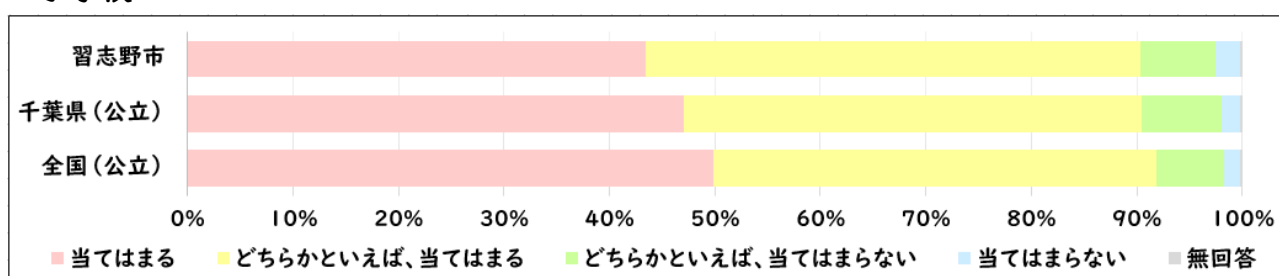


<中学校>

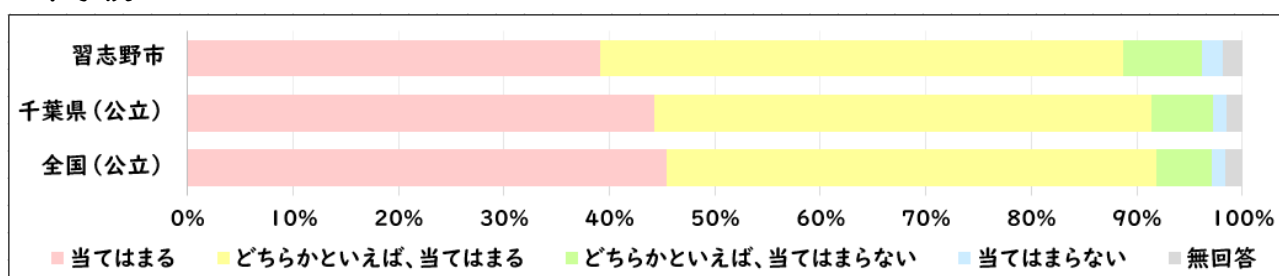


⑧授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。

<小学校>



<中学校>



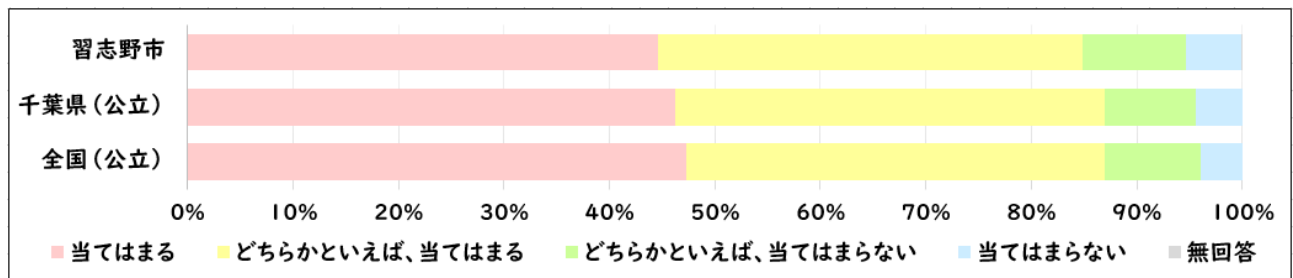
主体的・対話的で深い学びに関する質問に対して、「できている」「当てはまる」「発表していた」と回答している児童生徒が県や国よりも少ない結果となっています。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る必要があると考えられます。

- 主体的な学び…児童生徒が自分で考える時間を設定する
- 対話的な学び…対話やグループ活動を通じて、多様な視点に触れさせる
- 深い学び…知識を自分のものとして活用する場面を設定する

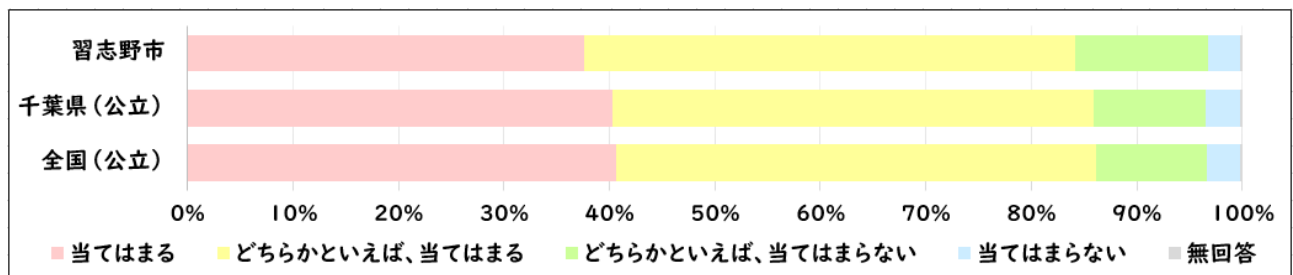
(3) 自己有用感、向社会性

①自分には、よいところがあると思いますか。

<小学校>

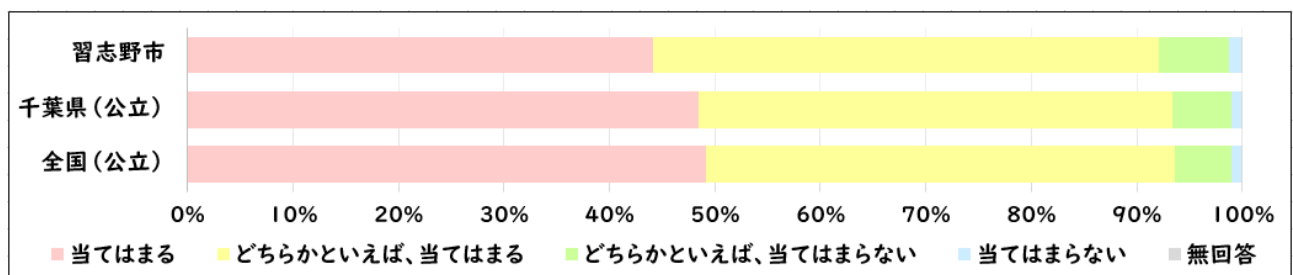


<中学校>

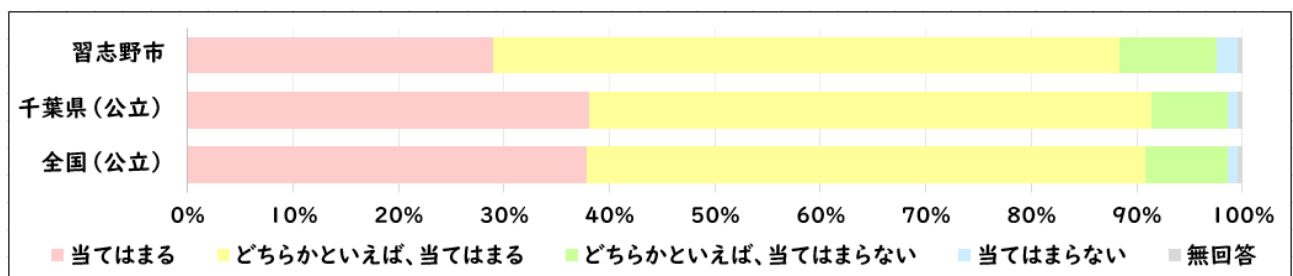


②人が困っているときは、進んで助けていますか。

<小学校>

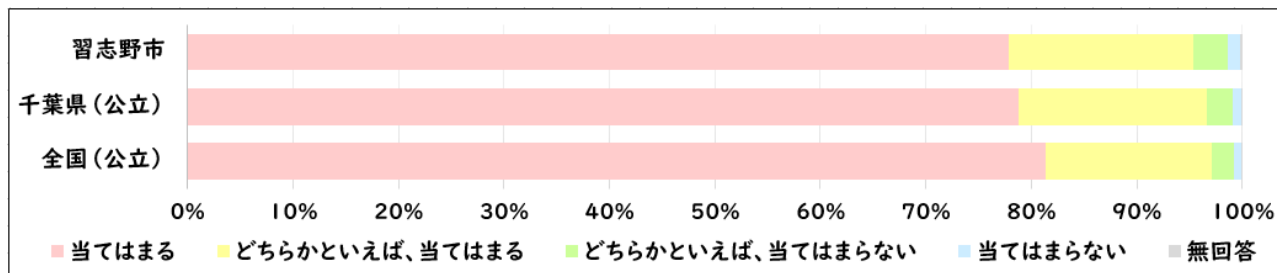


<中学校>

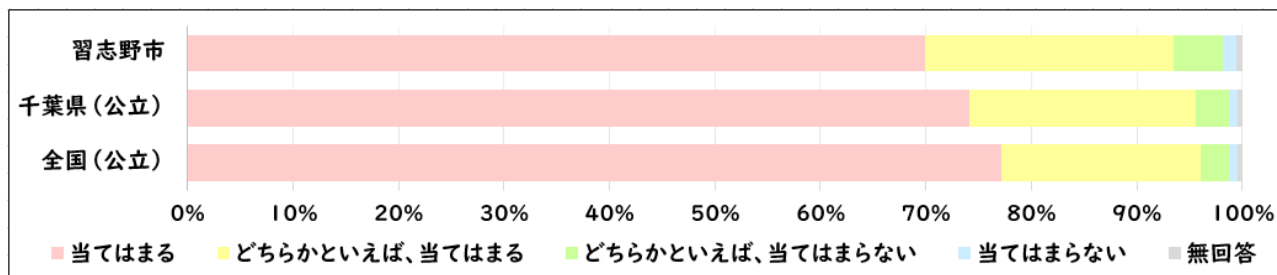


③いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。

<小学校>

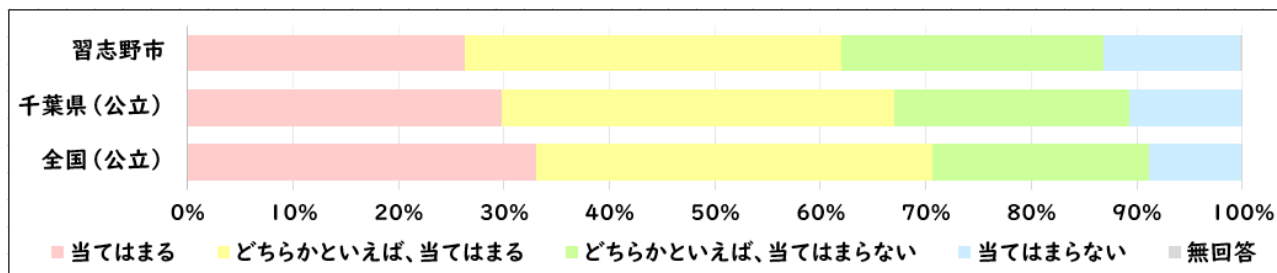


<中学校>

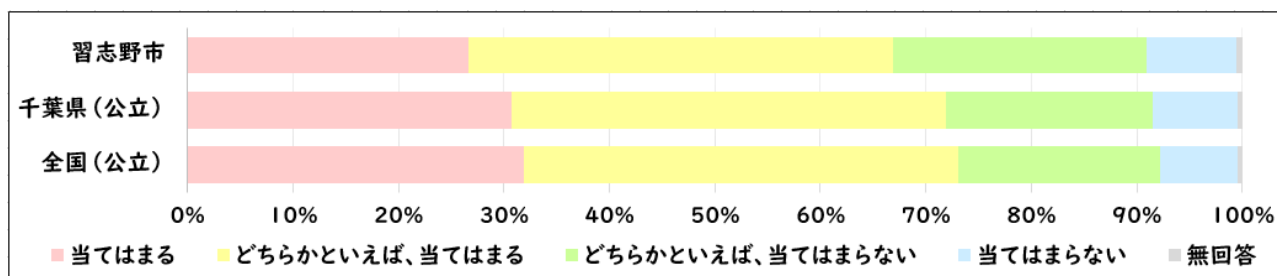


④困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。

<小学校>

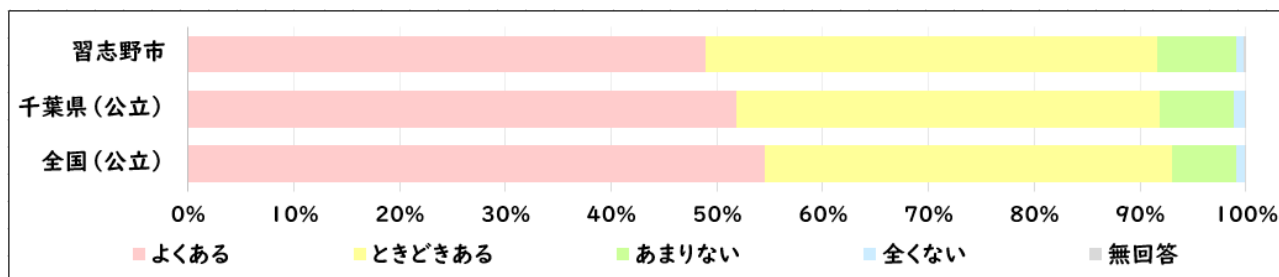


<中学校>

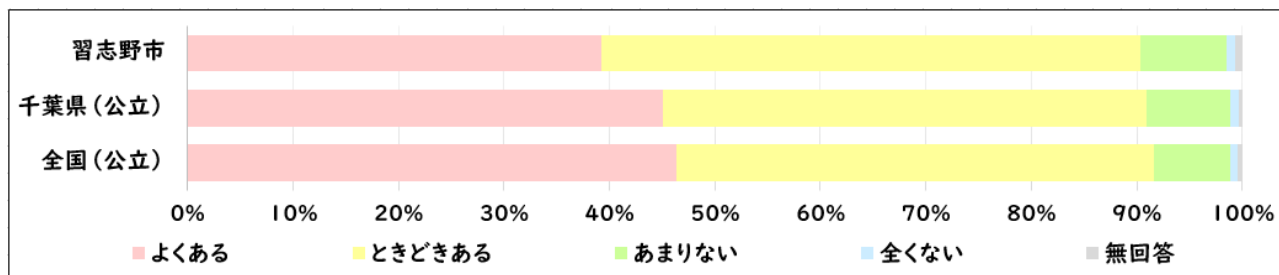


⑤ 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。

<小学校>



<中学校>



自己有用感等、向社会性に関する質問に対して、「当てはまる」「よくある」と回答している児童生徒が県や国よりも少ない結果となっています。国の分析では、児童生徒の主体的・対話的で深い学びに関する回答と、ウェルビーイングに関する回答との間には相関が見られることから、主体的・対話的で深い学びが児童生徒のウェルビーイングに影響を与えている可能性があります。

児童生徒の「分かる」「できる」を目指した授業づくりの実践により、学力の向上だけでなく、自己肯定感や自己実現、人とのつながり、利他性、社会貢献意識など、ウェルビーイングの向上も図っていくことが大切です。

8 今後の取り組み

児童生徒質問調査の結果を受けて、教育委員会では児童生徒の自己有用感を高めるための取り組みを推進します。詳しい内容については、後日ホームページへ掲載します。